

# ニュージーランド・トンガリロ・エグモンド国立公園・現地調査の概要

都留文科大学教授・グラウンドワーク三島専務理事 渡辺豊博

調査期間:2014年3月23日(日)~30日(日)

3月24日(1日目):自然保全省オークランド事務所にて、関係職員から聞き取り

自然保全省オークランド事務局にてピーター・トゥインダー氏と面談し、NZの国立公園制度に関わる管理運営制度を調査。12地区の国立公園を国が一元管理しており、自然・文化等に関する包括的なモニタリング調査が実施され、管理運営計画書・マネジメント・ガイドラインが整備されている。



秋に向かうすがすがしい気候と街並み



自然保護への強いプライドと自信を感じた



小雨が降ったあとは、空一面に広がる素晴らしい虹が我々の訪問を迎えてくれた



国立公園の入り口には、自然保護に関する法律や罰則についての説明看板が立っている。公園内に住む動植物についても、専門的な解説がなされている

### 3月25日(2日目): 自然保全省トウランギ事務所にて、関係職員・レンジャーから聞き取り

オークランドより、南へ4.5時間程移動したトウランギ事務所にて実施。渡辺教授がNPO法人富士山クラブ事務局長時代に富士山と姉妹山を締結。それから10年振りにマーク・デビス氏(左)と再会。富士山の世界文化遺産登録と一緒に祝った。イコモスからの宿題とその対策についての助言を頂いた。

国家規模で世界遺産の保全・管理に取り組むニュージーランド自然保全省は、各地の行政・企業・地元NPO団体・地域住民のパートナーシップを図るためその調整を行ったり、現場の公園管理や自然動植物の保全活動など、多岐にわたる業務に取り組んでいる。



トランギに向かう道中、硫黄の臭いが充満  
巨大な温泉施設が観光客を集めていた



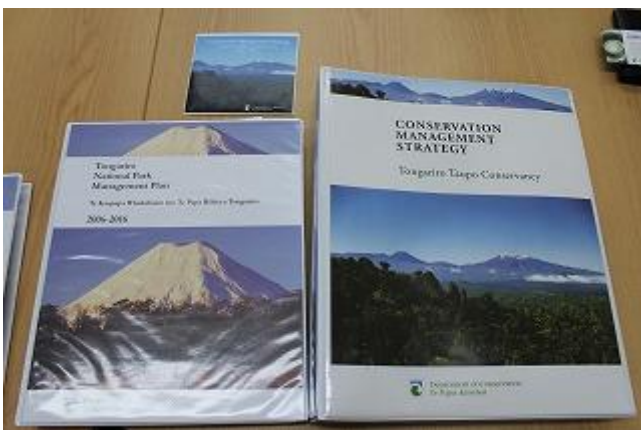
自然保全省トランギ事務局入り口



10年ぶりに再会した自然保全省地域計画主幹のマーク・デビス氏(左)と火山対策顧問のハリー・キース氏(右)を交えて面談



ボランティア団体、プロジェクト・トンガリロ代表のポール・グリーン氏(左)と自然保全省パートナーシップ部門の現地職員も面談に同席



「管理運営計画(マニュアル)」

10年に一度改定されている自然環境の保全・管理のためのガイドラインで各地域に合わせて作られている



トンガリロへ向かう道中、一面伐採された平地を発見  
よく見ると跡地には新しい樹木が植えられていた

3月26日(3日目):トンガリロ国立公園ビジターセンターにて、関係職員・レンジャーから聞き取り

早朝は雲が掛かっていたルアペフ山。次第に天気回復を見せ、午後は見事な景色が広がった。

トンガリロ国立公園内に設置されているビジターセンターにて面談を実施。現場で活躍するレンジャーから、公園内の管理体制や、周辺施設とのパートナーシップを図った取り組み、山頂でのし尿問題、外来動植物の対策、地元ボランティアとの連携など幅広い業務に就いている。毎年多くの観光客を迎えるトンガリロ国立公園では、特にし尿が深刻な問題で、その対応に現場レンジャーが頭を抱えていた。



トンガリロ国立公園入口



美しいシャトー・トンガリロホテルと聳え立つルアペフ山



ワカパパビジターセンター外観



ビジターセンター内では登山について分かりやすく解説したパーテーションを用いて登山客に注意を促している



ブレンド・ガイ氏(写真・上)より、トンガリロ国立公園の概要を御説明頂いた



外来動物の駆除も現場レンジャーの大事な仕事 ボランティアの協力を募り、在来動物の保全に取り組んでいる



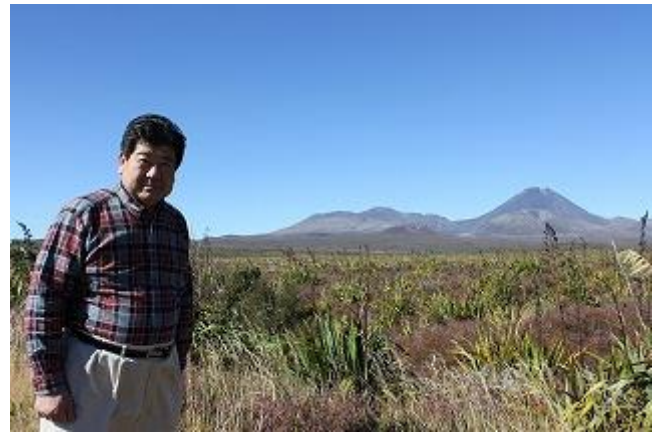
トンガリロ国立公園のビジターセンターより車で 5 分移動したところに下水処理場を設けている  
冬のシーズンは観光客増加に伴い量が増すとのこと



ヘリコプターによるし尿の処理。多い日には1日50回にも及ぶ山頂と山腹の往復が繰り返される。(写真・上)



終日案内して下さった自然保全省の現場レンジャーと、国立公園の環境保全について意見を交わしあった。



ルアペフ山から下山し、ナウルホエ山周辺の視察のため北東へ移動



麓周辺に設置されている木材でできたトイレ  
臭いもなく、中も清潔だった



山頂付近の簡易トイレ 例年登山者から増やしてほしいと意見が多く挙がっているとのこと



登山直前に山の解説や登山道の案内を再確認できる  
(ナウルホエ山入口)



舗装整備が整う登山道



ナウルホエ山



ナウルホエ山



ナウルホエ山山頂の美しい湖を見るため、多くの登山客が訪れる



山小屋で休憩をとる登山客たち

3月27日(4日目):三島の姉妹都市ニュープリマス・タラナキ事務局を視察、関係職員・レンジャーから聞き取り  
三島の姉妹都市でもあるニュープリマスへ移動。エグモント自然保全省を訪問し、その後ニュージーランドの富士山  
と呼ばれるタラナキ山(マオリ語)を視察。周辺には多くのマオリ族が住んでいる。彼らとの関わりや地元小中学校に  
おける環境教育の仕組みについて話を伺った。



三島市姉妹都市ニュープリマスから望めるタラナキ山



自然保全省タラナキ事務局の外観



マオリの血を引く自然保全省タラナキ事務局のダリン・ラタナ氏(左)とカイ・デイビス氏(右)によるタラナキ山の保全  
活動について話を伺った



タラナキ山の登山開始前に気軽に立ち寄れるビジターセンター (中段右)

トンガリロ国立公園同様、レンジャーが駐在し、登山客への注意事項やタラナキ山の歴史について分かり易く解説さ  
れている

3月28日(5日目):各地での視察を終え、オークランドへ移動。途中、ワイトモ鍾乳洞にてツチポタルを生息地を視察。ここもかつてはマオリの聖域だった。



3月29日(6日目):オークランド市内外の視察



オークランド博物館を視察。マオリ族の伝統文化と歴史を学んだ。



近代的なビルが立ち並ぶ中、あらゆる場所に緑が茂る公園があり人々の心と体を癒してくれる、そんな街だった

**所感:**

今回の現地調査では、各訪問先の自然保全省より、自然遺産の管理とその仕組みづくりについて各地の現状報告を受け、現場の山々の視察を行った。報告からは、行政・企業・NPO・地域住民が一体となって取り組むニュージーランドの環境保全と管理体制を「管理運営計画(マニュアル)」を用いて細かな点まで話を伺い、確認・納得することができた。また、環境保全に対する国全体の真剣な取り組みを模範的に学ぶことができた。

今後、ニュージーランド各地の自然保全省の取り組みをモデルに、富士山の管理体制を発展・強化させていく必要がある。このままでは、国際的な環境保全システムの未熟性により、世界の宝物となった富士山を長く守れず、日本政府としての管理体制の脆弱性を世界に晒すことになるのではないかと危機感を強く感じた。